

水戸市史年表（上）

時代	西暦	年号	事項
無土器時代			○藤井町十万原で発見された石器はこの時代のものと推定される。
縄文式時代			○この時代の遺跡に、大串貝塚・谷田貝塚・全隈町の集石址・渡里町アラヤ遺跡などがある。
弥生式時代			○一世紀以降、水戸地方に農耕生活がはじまり、部落の発生もみられる。 ○この時代の遺跡として柳河小学校々庭から住居址が発見された。
古墳時代			○そのほか、田谷・上国井・東照宮境内・愛宕山古墳付近・見和・千波・元古田・谷田・飯富・田野・藤井・河和田などの各地からこの時代の遺跡や遺物が発見されている。 ○六世紀後半までに、水戸地方、大和朝廷の支配下に入る。 ○このころ、常陸地方には仲・高・久自・新治・筑波・茨城などの国があり、水戸地方は当時那珂国に属する。 ○水戸地方最大の愛宕山古墳は那珂国造の墓と伝えられる。
飛鳥時代	六四六	大化 二	○一月 大化改新の詔 。国・郡・里の制度定まる。
	七〇一	大宝 元	○八月 大宝律令成る。
奈良時代	七一〇	和銅 三	○三月 都を平城京にうつす 。
	七二三	養老 七	○宇治部直荒山が私穀を陸奥国鎮所に献じ、外従五位下を授けられる。 ○このころ常陸地方、蝦夷対策上、重要な地位を占める。 ○吉田古墳・富士山古墳・下国井横穴・堀町第二号古墳ができる。
	七三八	天平 一〇	○このころ常陸国から二六〇余人の防人が九州大宰府におもむく。 ○この前後、徳輪寺が創建される。 ○宇治部氏が那賀の郡司を世襲する。
	七六四	天平宝字 八	○常陸地方に旱害があり、疾病が流行する。
	七八一	天応 元	○一月 宇治部全成が軍穀を献じて外従五位下を授けられる。 ○このころ、吉美侯氏、吉田神社を祀る。また、蝦夷鎮定に功あり。
	七八二	延暦 元	○吉田薬王院このころ開基される。

平安時代	七九二	一一	○常陸国の健児の人員二〇〇人で、全国第二位を示す。
	七九四	一三	○十一月 都を平安京にうつす。 ○この前後、郡司宇治部氏の勢力衰える。 ○水戸地方の繁栄の中心が渡里台地方面から吉田台地方面へ移動する。
	八一二	弘仁 三	○この前後、常陸国で、駅の改廃が行なわれる。 ○九世紀初期、常陸国の田積、四万九二町六段一二一歩で全国第二位、官稲の出挙で全国最大の課税額を示す。
	八一八	九	○七月 関東一帯に地震があり、多くの百姓圧死する。 ○九月 常陸国の国司、朝廷に住民の貧窮を訴える。
	八二六	天長 三	○九月 常陸国、上総・上野とともに親王任国となる。
	八四六	承和 一三	○四月 吉田神社、大社から名神に昇格する。
	八五七	天安 元	○一〇月 酒列磯前神社、名神に列せられる。
	八六二	貞観 四	○七月 常陸の河内・信太・鹿島・那賀・多珂の五郡に水害があり、疫病がひろがる。
	八七二	一四	○朝廷、吉田神社に祭会及び諧雑舎の修理料として、年々八〇束の租穀の寄進を決定する。
	九三五	承平 五	○二月 平将門、伯父国香（常陸大掾氏の祖）を殺す。
	九四〇	天慶 三	○二月 平貞盛・藤原秀郷ら、将門を討つ。 ○将門の乱後、桓武平氏が坂東武士の間に勢力を伸ばす。 ○この世紀前半までに、那珂郡から分かれて吉田郡が成立する。
	九八五	寛和 元	○佐竹寺、花山天皇の勅願によって開基されたと伝えられる。
	一〇二八	長元 元	○六月 平忠常の乱おこる。
	一〇三〇	三	○九月 源頼信、平忠常を討つ。 ○これより源氏が平氏にかかわって坂東武士の間に勢力を伸ばす。
	一〇五一	永承 六	○前九年の役おこる。源義家、父の頼義とともに奥州に赴く。
	一〇八三	永保 三	○後三年の役おこる。この地方に奥州への往来にまつわる義家の伝説が多い。 ○この前後、常陸大掾氏、国内の郡郷に確固たる地盤を築く。
	一〇九〇	寛治 四	○吉田社領、このころ宮司吉美俣氏と大祝大舎人氏に管理される。
一一二二	保安 三	○大掾致幹、この年及び天治元（一一二四）年、経筒を奉納する。	
一一三二	長承 元	○このころ、吉田神社と国衙との争いつづく。	

鎌倉時代	一一三三	二	○同社の社務の実権を大舎人氏が握る。 ○大舎人氏、社務を小槻氏に寄進して、吉田社の領家と仰ぐ。
	一一三五	保延 元	○「法主聖」の銘ある経筒がつくられる（江戸時代、神崎寺の境内から発見される）。
	一一四九	久安 五	○このころ、源義業（義家の甥）、久慈郡佐竹郷を領する（その子昌義は、はじめて佐竹を称する）。
	一一七七	治承 元	○那珂通泰、那珂西城を築くと伝えられる。
	一一八〇	四	○このころ、佐竹氏の所領は常陸のいわゆる奥七郡に及ぶ。 ○八月 源頼朝、伊豆に挙兵 。このとき、佐竹義隆・秀義らは頼朝に帰伏せず。 ○一〇月 富士川の合戦。 ○十一月 頼朝、佐竹征伐を決意し、常陸の大矢橋で佐竹忠義をうち、金砂山に同秀義を攻めて敗走させる。 ○同月 頼朝、佐竹氏の奥七郡を没収する。 ○この前後、国井政俊、鹿島神社の禰宜中臣政親と橋郷を争う。
	一一八一	養和 元	○二月 志田義広、頼朝に反抗する。
	一一八五	文治 元	○十一月 頼朝、守護地頭設置の勅許をえる 。
	一一八九	五	○七月 八田知家、常陸国の守護に任ぜられる。 ○九月 頼朝、奥州を平定する。 ○このころ、頼朝、常陸国を支配下にいれる。
	一一九三	建久 四	○六月 多気大掾義幹没落して、馬場資幹がその遺領をつぐ。 ○七月 資幹、鹿島社造嘗奉行となる。 ○九月 資幹、常陸大掾家の本宗をつぐ。
	一二一四	建保 二	○親鸞、越後から稲田に移住する（以後約二〇年間この地方で布教）。
	一二一八	六	○唯円房、河和田に道場を開くと伝えられる。
	一二二六	嘉禄 二	○七月 吉田社領に役夫工米が課せられる。
	一二三八	嘉禎 四	○二月 那珂左衛門尉某、將軍頼経の上洛に従う。
	一二四四	寛元 二	○吉田社の領家小槻氏、幕府法に従って庄園を支配する。 ○この前後、吉田社領に年貢の銭納が多く行なわれる。
	一二七一	文永 八	○この前後、吉田神社の鑑取り争論が行なわれる。
	一二九三	永仁 元	○波木井実氏、加倉井に妙徳寺を建立する。
	一三〇八	延慶 元	○このころ、吉田神社、小槻氏をはなれて鷹司家の支配となる。
	一三二四	正中 元	○太田城主佐竹貞義、太田に浄光寺を開く。

南北朝時代	一三三二	元弘 二	○五月 万里小路藤房、常陸に流罪となり、小田治久に預けられる。
	一三三三	三	○六月 北条氏滅亡により、藤房、治久を伴って上洛する（治久、南朝方となる）。
	一三三四	建武 元	○ 建武新政はじまる。
	一三三五	二	○七月 中先代の乱おこる。 ○同月 佐竹貞義、足利直義を助けて鶴見・鎌倉で戦う。 ○このころ、大掾高幹、南朝・北朝方に対する態度を決せず。
	一三三六	延元 元 (建武三)	○十一月 足利尊氏、征夷大將軍となる。 ○このころ、常陸北部を中心として、南北両朝の戦が激化する。
			○一二月 瓜連城落ち、佐竹氏、常陸北部を掌握する。このとき那珂通辰とその一族戦死。
	一三三七	二 (建武四)	○二月 佐竹・大掾軍、小田城を攻撃する。 ○三月 国府原合戦おこる。
			○七月 佐竹義春、笠間城・東条城・亀谷城を攻める。
	一三三八	三 (暦応元)	○一〇月 佐竹勢、小田治久らと茨城郡で戦う。 ○九月 北畠麴房、東条庄に着き、ついで神宮寺城に入る。 ○一〇月 神宮寺城落ち、親房、小田治久の誘導で小田城に入る。
	一三三九	四 (暦応二)	○二月 春日顕国、小田城に入る。 ○一〇月 室町幕府、高師冬を南朝方鎮庄のため東下させる。
	一三四〇	興国 元 (暦応三)	○大掾高幹、佐竹勢と青柳で戦う。
	一三四一	二 (暦応四)	○「藤氏一揆」の計画が、親房らに衝撃を与える。 ○五月 高師冬、水戸から小田城攻撃に向かう。 ○このころ、大掾高幹、再び北朝方となる。 ○十一月 小田治久、師冬に降る。
			○同月 親房、小田城を去り、関城に移る。
	一三四三	四 (康永二)	○八月 結城親朝、北朝方に応じ、大勢決する。
	一三五〇	正平 五 (観応元)	○このころ那珂通泰（江戸氏の祖）、尊氏に属し、戦功によって江戸郷を領する。
	一三八〇	天授 六 (康暦二)	○六月 足利氏満、関東八ヶ国に命じて小山義政を討たせる。大掾詮国もこれに従う。
一三八六	元中 三 (至徳三)	○大掾頼幹、小松寺を再興する。	
一三八七	四 (嘉慶元)	○八月 小山義政の遺子若犬丸、小田孝朝らと難台城にこもる。	

室町時代	一三八八	五 (嘉慶二)	○五月 佐竹氏ら難台城を攻め滅ぼす。このとき江戸通高、佐竹氏に属して戦死。
			○このころ、江戸通景水戸地方に進出をはじめる。
	一三九二	九 (明德三)	○一〇月 南北両朝合一する。
	一四〇〇	応永 七	○大掾氏、居城水戸城の修築を行なう。
	一四〇八	応永 一五	○佐竹義憲、家督を相続し、一族の内訌おこる。
	一四一六	二三	○一〇月 上杉禅秀の乱。このとき大掾満幹、禅秀党に属して敗れ、大掾氏の勢威弱まる。
	一四二〇	二七	○九月 了誉（常楊寺を再興）入寂。
	一四二五	三二	○常陸の守護職が佐竹義憲と山入祐義に分割される。
			○ このころ江戸通房、水戸城に進出する。
	一四二九	永享 元	○一二月 大掾満幹とその子慶松、鎌倉雪の下の邸で管領持氏に殺される。
	一四三八	一〇	○八月 永享の乱おこる。
	一四四〇	一二	○三月 結城合戦おこる。
	一四五〇	宝徳 二	○宥尊（小松寺中興開山）入寂。
	一四五二	享徳 元	○佐竹義俊、弟実定に太田城を追われる。
	一四五四	三	○一二月 足利成氏、上杉憲忠を殺す。実定・通房ら上杉方に属す。
	一四五九	長祿 三	○通房、戦功により将軍足利義政から感状を与えられる。
	一四六五	寛正 六	○五月 通房没。
	一四六七	応仁 元	○ 応仁の乱おこる。
	一四八一	文明 一三	○五月 江戸通長、小幡長門守らと小鶴原で戦う。
	一四八六	一八	○三月 江戸通雅、徳宿・畑田氏らと戦い、徳宿城を落す。
一四八九	延徳 元	○九月 江戸真純、京都の飛鳥井邸で歌会を催す。	
一四九〇	二	○山入義藤・氏義父子、佐竹義舜を追って、太田城を占拠する。	
一四九三	明応 二	○前年、山入義藤病没し、この年佐竹義舜と山入氏義の和議が成立。	
一五〇四	永正 元	○義舜、太田城を奪回し、山入氏滅亡。応永以来約一世紀にわたる佐竹・山入の争乱終わる。	
一五一〇	七	○一二月 佐竹義舜、江戸通雅・通泰父子と一家同位の盟約を結ぶ。	
		○一二月 江戸通雅没。	
一五一三	一〇	○このころ江戸氏、足利高基方について、佐竹氏と対立する。	
一五一七	一四	○佐竹義舜没。	

	一五二〇	一七	○九月 江戸真純、京都の三条西実隆邸を訪問する。
	一五二二	大永 二	○如実、常磐村に來住して林光院を開く。 ○通泰、和光院を水戸船戸山に移し、江戸氏の菩提寺とする。
	一五二七	七	○六月 江戸真純、熊野詣の帰途再び三条西邸を訪い、歌評を乞う。 ○六月 吉田薬王院火災にあう。
	一五二九	享祿 二	○八月 薬王院再建。 ○このころ、真言宗、江戸氏の保護により発展。
	一五三〇	三	○このころ江戸氏、南部へ発展しはじめる。
	一五三四	天文 三	○玉泉、藤沢小路に善徳寺を建立する。
	一五三五	四	○七月 江戸通泰没。 ○高久義貞、佐竹義篤（義舜の子）に叛いて敗れる。
	一五三七	六	○恵範（六地藏寺）入寂。
	一五四〇	九	○部垂義元、兄の佐竹義篤と戦って部垂城で討死。
	一五四三	一二	○義篤、伊達晴宗を援けて相馬氏と陸奥に戦う。江戸忠通も義篤に従う。
	一五四五	一四	○四月 義篤没し、子の義昭継ぐ。
	一五四七	一六	○このころ、佐竹義昭と江戸忠通戦う。
	一五五一	二〇	○六月 江戸氏と佐竹氏の和議成立。これより江戸氏再び佐竹氏の旗下に属する。
	一五五五	二四	○七月 天台・真言両宗の緇衣争論おこる。
	一五五八	永祿 元	○日慈、水戸城下に蓮乗寺を開く。
	一五六二	五	○八月 義昭、陸奥の相馬盛胤の軍と多賀郡孫沢原（日立下孫）で戦う。
	一五六四	七	○一月 佐竹義昭、上杉輝虎に援軍を求めて、小田氏治を破る。 ○六月 江戸忠通没。 ○江戸氏領内に徳政が施行される。
	一五六五	八	○十一月 佐竹義昭没。
	一五六六	九	○このころ、吉田神社、神道長上吉田家の配下に入る。
	一五六七	一〇	○空円、堀に光円寺を建てる。
	一五六九	一二	○行譽、酒門に定善寺を建てる。 ○このころ、江戸氏、大いに諸社寺を勧請する。
	一五七三	天正 元	○七月 室町幕府滅ぶ。
安土桃山時代	一五七五	三	○江戸重通、勅命により真言・天台両宗の争論停止を命令する。
	一五七七	五	○九月 佐竹義重ら、北条氏と小山に戦う。重通、義重に従う。

一五七九	七	○三月 薬王院、重通らの合力で伽藍を修造する。 ○唯正、信願寺を久慈郡から水戸の藤沢小路にうつす。
一五八二	一〇	○このころ、江戸重通、常陸南郡に進出する。
一五八三	一一	○常陸地方に水害がおこる。
一五八四	一二	○二月 義重・重通ら、宇都宮にせまる北条氏の大軍と戦う。
一五八五	一三	○二月 重通が大檀那となり、善福寺阿弥陀堂を造営。
一五八六	一四	○この春、佐竹義宣、義重のあとをつぐ。 ○八月 重通の軍、大掾氏の本拠府中を攻撃する。
一五八八	一六	○三月 佐竹・江戸軍、再び大掾氏と戦い、玉里城を攻撃。 ○七月 秀吉刀狩令を出す。 ○一二月 神生の乱おこる。
一五九〇	一八	○五月 義宣、秀吉の小田原攻めに従う。このとき、江戸・大掾氏らは秀吉に参礼せず。 ○七月 秀吉の奥州出兵に際し、義宣、その宿所設営ならびに会津先達を命ぜられる。 ○八月 義宣、秀吉から二一万貫文余の領国を公認される。 ○十一月 義宣、初めて上洛する。 ○一二月 佐竹氏、江戸氏の本拠水戸城を奪う。 江戸氏滅亡。 ○同月、佐竹氏、府中城を攻め、大掾氏滅亡。 ○和光院、田島に移る。
一五九一	一九	○一月 秀吉、佐竹領内の金山を直轄領とする。 ○二月 義宣、南郡諸将を滅す。 ○三月 義宣、太田城から水戸城に移る。 ○七月 秀吉、義宣に奥州出兵のため二万五千人の軍役を課す。 ○九月 秀吉、義宣に朝鮮出兵のため五千人の軍役を課する。 ○佐竹氏、普光を開山として神生平に時宗の道場を開く（寛永一〇年、神応寺と改称）。 ○このころ良残、谷中に光台寺を開く。
一五九二	文禄 元	○一月 義宣の軍、肥前名護屋に向かう。 ○八幡宮の本殿建立される。 ○明人周金溪が医術をもって義宣に仕えるなど、このころ唐人の水戸来住さかん。
一五九三	二	○九月 義宣、名護屋より帰国する。 ○九月 義宣、水戸城普請・城下町の整備を進める。
一五九四	三	○一月 秀吉、義宣に伏見城建築のための夫役三千人を課す。 ○一〇月～一二月 石田三成、佐竹領に太閤検地を実地する。

	一五九五	四	○六月 義宣、秀吉から五十四万五千八百石の領地を公認される。 ○七月 義宣、大規模な領内知行割を開始する。 ○佐竹氏、岩城領に太閤検地を実施する。
	一五九八	慶長 三	○義宣、領内を検地する。 ○七月 妙徳寺の日尚、上寺町に本行寺を開く（のち袴塚町にうつる）。 ○八月 秀吉没 。
	一五九九	四	○三月 義宣、石田三成を武将派の攻撃から救う。
	一六〇〇	五	○六月 家康、義宣に上杉討伐のための出陣を命ずる。 ○七月 義宣、軍法十一箇条を定める。 ○同月 義宣、陸奥赤館に出陣する。 ○九月 関ヶ原の戦
	一六〇二	七	○八月 義宣、上杉氏と密謀して石田方に傾く。 ○五月 佐竹氏、秋田に国替えを命ぜられる。 ○七月 車丹波の一揆おこる。 ○八月 那珂川氾濫して水害おこる。 ○九月 佐竹氏秋田に入る。 ○十一月 家康、水戸城を武田信吉に与える。 ○薬王院、天台宗に復する。
江戸時代	一六〇三	八	○二月 家康、征夷大將軍となる 。 ○義宣、秋田郡久保田（窪田）に新城を築く（新領二十万五千八百石）。

上卷執筆一覧

総説	伊東多三郎
第一章水戸の自然と人文	堀口友一
第一節、第二節、第三節、第四節	
第二章郷土の黎明	大森信英
第一節、第二節	
第三章古墳文化と那珂国造	大森信英
第一節、第二節	
第四章律令制下の水戸地方	飯田瑞穂
第一節、第二節、第三節、第四節	
第五章律令制度の衰退と大掾氏の発展	
第一節、第二節、第三節	時野谷滋
第四節	宮田俊彦
第六章武家社会の展開と水戸地方	
第一節	宮田俊彦
第二節、第三節	杉山博
第四節	今枝愛真
第五節	伊東多三郎
第七章南北朝内乱と大掾氏の衰退	今枝愛真
第一節、第二節	
第八章江戸氏の水戸地方支配	藤木久志
第一節、第二節、第三節、第四節	
第九章水戸付近の城と館	
第一節	伊東多三郎
第二節、第三節、第四節、第五節	小室栄一

第十章江戸氏時代の文化

第一節

伊東多三郎

第二節、第三節、第四節

今枝愛真

第十一章佐竹氏の領国統一

第一節、第二節、第三節、第五節

藤木久志

第四節

瀬谷義彦

第十二章文化の新気運と郷土の生活

伊東多三郎

第一節、第二節

第十三章佐竹氏の秋田移封

伊東多三郎

第一節、第二節

特別調査

地質

斉藤登志雄

古代瓦窯址

大川清

台渡廃寺址

高井悌三郎

佐竹氏知行制

山口啓二

市史編さん委員会委員

(注下記の年月日は解嘱を示す)

委員長	水戸市長	山本敏雄
副委員長	水戸市助役	久下沼英
〃	水戸市議会議長	田沢重男 三六・四・二八
〃	〃	渡辺源四郎 三七・七・六
〃	〃	皆川勝男 三八・四・二九
〃	〃	和知忠雄
委員	水戸市議会副議長	伊藤栄一 三六・五・六
〃	〃	和知忠雄 三七・六・一六
〃	〃	安達勝次郎 三八・四・二九
〃	〃	種田六郎
〃	水戸市議会議員	渡辺源四郎 三六・四・二八
〃	〃	外山善八 三八・四・二九
〃	〃	畠山重勅三 八・四・二九
〃	〃	立原善重三 八・四・二九
〃	〃	田沢重男
〃	〃	弓削徳介
〃	〃 (農業委員会会長)	安達勝次郎
〃	〃	吉岡長吉
〃	水戸市教育委員会委員長	金沢正安
〃	水戸市農業委員会会長	石田善太郎
〃	〃	三五・八・二死亡
〃	〃	小林静 三六・七・一四
〃	水戸市助役	大高実

〃	水戸市収入役	入江博
〃	水戸市教育長	柴沼陽
〃	水戸市市長公室長	金沢二郎
〃	水戸市総務部長	武子寿郎
〃	水戸市民生部長	矢野茂直
〃	水戸市産経部長	安蔵旭
〃	水戸市建設部長	近重三郎
〃	水戸市水道部長	市毛一三
委員	水戸市総合企画課長	柏三郎
〃	水戸市総務課長	立林一郎
〃	水戸市社会教育課長	多治見義長
〃	水戸市市長公室長	武藤哲夫 三六・四・二八
〃	(主幹) 東京大学教授	伊東多三郎
〃	(幹事) 茨城大学教授	瀬谷義彦

事務局（市史編さん係）

係長	白井昂
	清水左千子
	石川洋
調査	山野辺善之介
〃	藤木久志
〃	鈴木暎一

水戸市史 上巻 ©

昭和三十八年九月三十日 印刷
昭和三十八年十月五日 発行
昭和三十九年五月三十日 第二刷発行
昭和四十四年四月三十日 第三刷発行
昭和四十六年五月二十日 第四刷発行
昭和三十九年十月二十日 第五刷発行
平成三年十二月一日 第六刷発行

水戸市史編さん委員会
編集者 主幹 伊東多三郎
発行者 水戸市長 佐川一信
印刷所 東京都新宿区榎町七番地
大日本印刷株式会社
発行所 水戸市中央一丁目四番一号
水戸市役所